

成犬譲渡のための性格診断

長野県動物愛護センター 松沢淑美

1 はじめに

当施設では、平成12年4月開設以来現在までに犬685頭、ねこ172匹の譲渡を実施した。平成13年度から成犬、成ねこの譲渡も実施した。子犬・成犬については、譲渡事業を円滑に推進するため選定基準を設けて保健所から引き継ぎを受けている。今回は、成犬の性格診断方法を示すと共に、成犬譲渡後の状況についてアンケート調査を実施したので、その結果について報告する。

2 性格診断の実施期間及び対象

- 1)実施期間 平成13年4月～平成15年2月
- 2)対 象 譲渡対象成犬として保健所から連絡のあった25頭
その内譲渡した20頭(雄13頭 雌7頭 室内飼育6頭 屋外飼育14頭)に対しては、譲渡者あてアンケート調査を実施

3 成犬譲渡の実施方法

- (1)成犬の性格診断(譲渡対象成犬の選定):保健所から引き継ぎを受ける際行う。
一次選定:年齢、体格、健康状態、警戒心、凶暴性
二次選定:社交性、支配性、興奮性、食物への反応、他の人・動物への反応
選定基準は表1のとおり。一次選定に合格した場合、二次選定を行う。
- (2)健康管理及びトレーニング:引き継ぎ後、動物愛護センターにて行う。
伝染病予防ワクチン接種、駆虫、不妊手術、基礎トレーニング
- (3)譲渡対象者の選定:申請書(調査書)に基づく書類審査、譲渡対象犬との個別面談、講習会の受講、誓約書の提出
- (4)譲渡者へのアンケート調査:平成15年2月アンケート調査を実施

4 結 果

- ・ 成犬の性格診断(譲渡対象成犬の選定)の結果、合格となったのは25頭中20頭であった。
- ・ 性格診断の結果、合格した20頭は、支配性、食物への反応、興奮性で高い評価が得られた。
- ・ 不合格の5頭の内訳は、一次選定の不合格が4頭、二次選定の社交性で不合格が1頭であった。
- ・ 譲渡後のアンケート調査結果は、20名中17名から郵送で回答があった。3名については電話による聞き取り調査を実施した。
- ・ 譲渡後調査で、20頭とも人、他の犬、食器、おもちゃへの攻撃性が他の項目に比べて低いことが特徴的であった。
- ・ 二次選定の社交性の採点が5点だった個体は、譲渡後調査でも「大きな音を怖がる、家族の中でも特定の人にしか慣れず臆病である」との回答を得た。
- ・ 興奮性が5点だった個体、他の犬や動物への反応が5点だった個体は、譲渡後調査の各質問項目で「興奮する」「吠える」といった回答が多かった。
- ・ 見知らぬ人に友好的である、基礎的な指示に従うことが出来る等、動物愛護センターでのトレーニングの成果と考えられる結果も得られた。
- ・ 全体を通じて問題行動の質問に対し、50%以上の飼い主が「ある」と回答した項目はなかった。また、「ある」と回答しても、そのことを飼い主が「問題行動」と認識していない場合も見受けられた。

5 考察及びまとめ

成犬の性格診断については、スー・スタンバーグ氏の評価法を参考に作成したものである。今回の調査で譲渡後の状況との関連を把握することができ、この選定基準が成犬の性格診断として有効であると言えた。

現在実施している成犬譲渡については、各関係機関からの要請が強い。また、譲渡者からはお礼のお便りや写真が寄せられ、「とても感謝している」「この事業をもっと推進してほしい」との声が多い。実際、子犬よりある程度落ち着いた成犬を飼いたいという年輩の方や、譲渡希望者の多い子犬よりもらい手のない成犬を助きたいという意識の高まりもある。県下の飼い犬の適正飼養の普及により、保健所に収容される子犬が減少傾向にあり、今後は益々成犬譲渡の割合が増加すると考えられる。

成犬の性格診断については、実施場所等が判定結果に影響を与えると考えられるので、なるべく静かな環境で行えるようにすることと判定員の技術の普及等を図り、今後更に充実させたいと考える。

表1 成犬譲渡候補犬の選定基準

1. 一次選定基準

原則として、搬入後2～3日目に実施するが、各保健所での毎日の様子を観察しながら判断する
 判定は、獣医師を含めた評価者3名以上で実施する
 要観察・要注意の項目は、譲渡先の状況によって判断する

判定項目	二次選定へ進む	要観察	要注意
年齢	1才～3才	3才～6才	7才以上
体格	小～中	中～大	大～特大
健康	異常なし	元気、食欲なし	病気、ケガ
警戒心	擦り寄ってくる	立ち止まるが寄る	逃げる、隠れる
凶暴性	おとなしい	普通	うなる、吠える、咬む

判定項目「健康」において、「異常なし」とは下記項目の基準を満たすこととする

項目	基準
体格	骨格系の異常(骨折、脱臼、先天性異常等)が見られない 著しい削瘦、起立困難、歩行困難が見られない
皮膚・体毛	皮膚炎、脱毛等が見られない
目	伝染性疾患が疑われる症状(目やに、流涙等)が見られない 眼球の異常(白濁、混濁、先天性疾患等)が見られない
耳	外部寄生虫が疑われる著しい汚れが見られない
鼻	伝染性疾患が疑われる症状(鼻汁、くしゃみ等)が見られない
肛門	肛門周囲が汚れていない(下痢、血便、脱肛等がない)

2. 二次選定基準

原則として、搬入後6～8日目に実施する
 (環境に慣れ、犬が落ち着いてきたところで)
 判定は、評価者3名以上で実施する
 50点満点で40点以上を合格とする
 (40点に少々満たない場合、譲渡対象者の条件によっては譲渡可能)

判定項目	適(10点)	やや適(5点)	不適(0点)
社交性	喜ぶ	固まる	逃げる
人に対する許容性	楽にさせる	少し抵抗する	抵抗してさせない
興奮性	興奮しても 落ち着くことができる	興奮しても 落ち着くことができない	唸る、放さない、怒る
食物への反応	受け入れる 変化なし	受け入れる 食べる速度増す	唸る、咬む 攻撃しようとする
人・動物への反応	注目する 臭いをかぐ	固まる 怖がる	襲い掛かるうとする 興奮し吠える

判定項目	評価(ABC)	採点	備考(条件等)
社交性			
人に対する許容性			
興奮性			
食物への反応			
人・動物への反応			
合計点			

評価者 _____点 評価者 _____点 評価者 _____点

評価者3名のうち2名以上が合格点をつければ譲渡候補犬として採用する。
 合否判定は3名の合計点ではない。

成犬譲渡候補犬として	採用・条件付採用・不採用
------------	--------------

< 二次選定基準判定細目 >

評価が終了したら、ABCの順に並び替え(例: BBA ABB)、採点表により点数を記入する

判定項目	判定内容	評価項目(犬の行動及び反応)		評価
社交性	手の臭いをかがせる	A	鼻を近づけて臭いを嗅ぐ	
		B	鼻を近づけない	
		C	逃げようとする	
	リードを持ち立ったまま犬の背中を3回なでる	A	喜ぶ・受け入れる	
		B	固まる・興奮する	
		C	振り払う、逃げようとする	
	犬の気を引きながら20秒間さわる	A	喜ぶ・受け入れる	
		B	固まる・興奮する	
		C	振り払う、逃げようとする	
採点				
人に対する許容性	イスに座って犬の体に触れる 20秒間	A	喜ぶ・受け入れる	
		B	固まる	
		C	振り払う、逃げようとする	
	歯を見る 1回5秒5回	A	楽にできる	
		B	段々抵抗が増す	
		C	見ることができない	
	後ろから抱きつく 15秒間	A	楽にできる	
		B	段々抵抗が増す	
		C	振り払う、逃げようとする	
採点				
食物への反応	食事中に、横から食器を押す	A	変化なし	
		B	速度が増す	
		C	唸る、咬む	
	食事中に、食器の中の食べ物に触れる	A	変化なし	
		B	速度が増す	
		C	唸る、咬む	
	食事中に、犬の口元を押す	A	変化なし	
		B	速度が増す	
		C	唸る、咬む	
採点				
興奮性	遊んでいるとき、おもちゃなどを取り上げる	A	遊びを中断する、興味がない	
		B	遊びは止めるが興奮が続く	
		C	唸る、放さない	
	走る人への反応を見る	A	注目する、興味がない	
		B	怖がる、無視する、固まる	
		C	興奮し吠える、怒る、攻撃しようとする	
採点				
人・動物への反応	他人が部屋に入って来る	A	注目する	
		B	怖がる、無視する、固まる	
		C	怒る、攻撃しようとする	
	友好的態度で犬に接近する	A	注目する、静かに接近する、臭いを嗅ぐ	
		B	怖がる、無視する、固まる	
		C	怒る、攻撃しようとする	
	子供、変わった風貌の人、小動物等への反応	A	注目する、静かに接近する、臭いを嗅ぐ	
		B	怖がる、無視する、固まる	
		C	攻撃しようとする	
採点				
合計点				

<二次選定基準判定細目の採点方法(採点表)>

10点		5点			0点	
AAA	AAB	AAC	ACC	ABB	BCC	CCC
AA	AB	BBB	ABC	BBC	BC	CC
		AC		BB		

評価者氏名 _____

評価対象個体番号 _____

年齢 _____ 才 性別 _____ 特徴(毛色) _____

評価年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

評価場所 _____